

教科名	地歴	科目	日本史選択(特進)	週授業時間	3
-----	----	----	-----------	-------	---

1. 教科書および副教材・参考書

教科書 : 『詳説日本史探究』(山川出版社)

参考書 : 『日本史用語集』(山川出版社)

図説 : 『詳説 日本史図録』(山川出版社)

2. 授業の目標および内容

日本史選択の授業は、2年生時の学習に引き続き幕政改革期から現代の日本社会までを扱う予定です。授業形式として、扱う内容が多いためプリントを使用した書き込み学習を主とします。

大学受験の学年ということで、日本大学への基礎学力試験は勿論、難関大の入試問題を突破できる知識や思考力を身に付け、体系的な枠組みや因果関係を用いて生徒自身が考え答えを導き出すことができる学力を身に着けることが目標となります。

したがって、積極的に応用的な知識事項を扱いながら、知識同士がどのようにつながりを持つか、歴史的な因果関係はどのようなものであるかを常に意識させながら、我が国の歴史を大局的に捉え、国際社会でも日本を背負って立つ国際人としての基盤を身に着けることを目指します。

3. 試験について

	1 学期		2 学期		3 学期
定期試験	一次 5 月	二次 7 月	一次 10 月	二次 12 月	なし
学力試験	第 1 回 6 月		第 2 回 9 月		なし

内容・難易度について

①定期試験：100 点満点で出題します。範囲はその都度指示します。学んだ内容に関連する初見の史料問題や記述・論述問題なども出題し、学習内容の習熟度を確認します。

②学力試験：選択・演習の範囲それぞれ 50 点分出題します。

4. 課題・補習について

受験体制のため課題はありません。受験生という自覚を持ち学習がなされることを期待しますが、必要に応じて指示する場合があります。また、動画での通史履修を指示する場合があります。

5. 評価の観点

授業態度や提出物等を勘案して評価します。

年間授業計画

学期	単元	学習内容	備考
1	第10章 幕藩体制の動揺	1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化	常に幕府の課題となり続けた飢饉やそれに関連する財政課題などに対しどう向き合ったのか、ペリー来航によって江戸社会がどのように変化していったのかを基軸として、時代や為政者ごとの政治の特徴や社会の変化を中心に学習する。 明治政府の近代国家政策がどのように形成されていったのかを、諸外国とのつながりを強く意識しながら学習する。 また、日清・日露戦争などを通じて植民地政策とそれに付随して展開されていく日本の軍国主義化の過程を学習する。 1 学期間だけでなく、夏休みも通史学習を進める。
	第11章 近世から近代へ	1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政府の発足	
	第12章 近代国家の成立	1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立	
	第13章 近代国家の展開	1 日清・日露戦争と国際関係 2 第1次世界大戦と日本 3 ワシントン体制	
	第14章 近代の産業と生活	1 近代産業の発展 2 近代文化の発達 3 市民生活の変容と大衆文化	
	第15章 恐慌と第2次世界大戦	1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第2次世界大戦	
2	第16章 占領下の日本	1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和	敗戦後の日本について、経済的側面とせいじてきそくめんを絡めながら多角的に学習・考察する。
	第17章 高度成長の時代	1 55年体制 2 経済復興から高度経済成長へ	
	第18章 激動する世界と日本	1 経済大国への道 2 冷戦の終結と日本社会の変容	